



NO.5

宇陀市 政策推進部 企画課 DX推進室

テーマ

業務改善アプリの構築と
デジタル人材育成研修



ノーコード × 人材育成で、
行政DXを自走させる

業務改善アプリ基盤と
「ノーコード共創道場」の提案

宇陀市政策推進部企画課 DX推進室 主事 大浦 公督

大阪方面への
通勤・通学に便利



人口:約2.6万人

高齢化率:46%超

大阪から約1時間

特徴:トカイナカ

★自然豊かな環境と、都市圏への近さを併せ持つ地域

企画課について

私たちは、「総合計画」の策定や進捗管理をはじめ、地域公共交通やDX推進等、重要施策を推進しています。

自治体内の連携を担うハブとしての機能を持ち、庁内外の原課や施設と連携しつつ、課題を着実に解決していくことをミッションとしています。



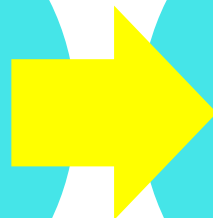
企画課DX推進室 主事の大浦です。
DX推進には単なるシステム導入だけでなく、人材育成も必要であると考えています。

このままでは、行政サービスの維持が難しくなる

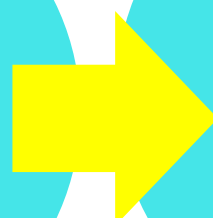
なぜ宇陀市に、DXが必要なのか

職員の年齢層において、
退職集中リスクが顕在

少子
高齢化



人口
減少



職員数の
減少

ニーズ
多様化

年齢別職員構成(令和7年4月1日時点)



★限られた人員で行政サービスを維持・向上するには、業務のやり方そのものを変える必要がある

「聞けば早い」が積み重なり、**改善の時間が削られる**

よくある問い合わせ(例)

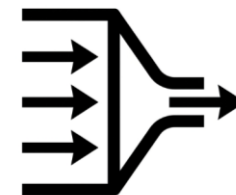
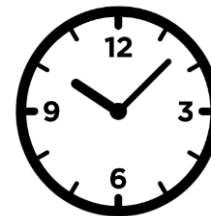
- ・Excel:簡単な関数の修正/集計表の直し
- ・電子申請:操作方法・手順の質問
- ・施設予約システム:
予約枠・権限・エラー対応
- ・PC周り:
PDF結合、印刷、ファイル変換など

共通点

- ・自分で調べる前に聞く
(検索・マニュアル未確認)
- ・「担当者に**聞けば解決**する」
前提
- ・属人化しやすく、同じ質問が
繰り返される
- ・結果として、担当者がヘルプ
デスク化する

影響

- ・本来やるべき、業務改善・仕組み
化の時間が減る
- ・知識が共有されず、組織の学習が
進まない
- ・「できる人」への依存が強まり、改
善が広がらない



★この「問い合わせ文化」を早期に変えないと、DXはツール導入だけで終わる

宇陀市のDX観

ツール導入だけのDX

- ・一部の詳しい職員に依存
- ・現場に定着しない
- ・改善が広がらない

人材育成を伴うDX

- ・職員が自ら課題を見つける
- ・自ら業務を改善する
- ・改善が組織に広がる

★DXの鍵は、職員が「使いこなし」「改善できる」こと

小さな改善・
次の改善へ



自信が
つく

IT技術やAI
をきっかけとした、
成功体験
のサイクル

業務が
楽になる



達成感・
評価

★成功体験が、DXを「自分ごと」にする

Before

- Excel台帳、管理表が多数

その結果…

- マクロや関数が属人化
- 更新で動かなくなる
- 修正できる職員に限られる



After

- ノーコードで再構築

その結果…

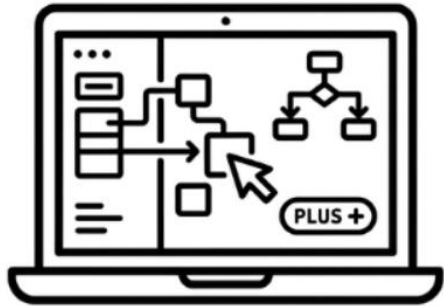
- 誰でも扱える
- 業務フローが見える化
- 継続的に改善できる



想定用途: 台帳管理 / 申請管理 / 報告集約 / 照会対応 / 施設管理 など

業務改善アプリ基盤 × ノーコード共創道場

1.基盤導入



業務改善アプリ基盤

LGWAN環境で使える
ノーコードツールの作成

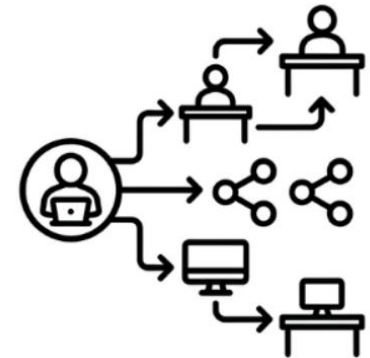
2.人材育成



ノーコード共創道場

若手職員約60名への
実践研修

3.横展開



庁内横展開

受講者が原課に戻り、改善を広げる

導入 → 研修・試作(成功体験) → 実業務で活用・各所属へ展開(更なる成功体験)

一緒にしたいこと

開発



基盤づくり (LGWAN)

LGWAN環境で使える
ノーコード業務改善
・アプリ基盤の共同検討・
構築

研修



人材育成 (共創道場)

職員向け「ノーコード
共創道場」の設計/研修実
施/伴走

PoC



現場起点のPoC (逆提案歓迎)

現場課題からの
業務効率化提案・PoC
※ノーコードに限らない
提案も歓迎

「作って終わり」ではなく、現場に定着する型と一緒に

宇陀市と共創するメリット

- ・LGWAN・自治体要件に対応した**実装/運用ノウハウ**が得られる
- ・現場課題からユースケースを共同創出し、**再現性あるモデル化**ができる
- ・「**研修×業務改善**」の仕立てで、導入後定着まで含む提案力が高まる
- ・成果を事例化し、**全国自治体への横展開**につながる

成功体験から始まる自治体DXを、宇陀市で一緒に形にしませんか。

ツール導入に留めず、**現場が自走する「UDAモデル」**を共創したいと考えています。

「デジタルの力で、将来も選ばれ続ける宇陀市」の実現に向け、住民サービスの持続と職員の自走を“実装できる形”で共に進めていきたいです。